

衆議院国土交通委員会ニュース

【第208回国会】令和4年3月9日（水）、第3回の委員会が開かれました。

1 令和9年に開催される国際園芸博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律案（内閣提出第15号）

- ・ 斉藤国土交通大臣、渡辺国土交通副大臣、大岡環境副大臣及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・ 採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成一自民、立民、維新、公明、国民、共産、有志、れ新）
（質疑者） 稲富修二君（立民）、金子俊平君（自民）、伊藤渉君（公明）、山崎誠君（立民）、
浅川義治君（維新）、古川元久君（国民）、高橋千鶴子君（共産）、福島伸享君（有志）、
たがや亮君（れ新）

（質疑者及び主な質疑事項）

稲富修二君（立民）

- (1) 2027年の国際園芸博覧会開催の意義
- (2) 横浜市が策定した「2027横浜国際園芸博覧会（計画案）」に記載された有料来場者数
 - ア 有料来場者数を1,000万人にしていることについて国も共有しているかの確認
 - イ 有料来場者数の算出根拠
- (3) 国際園芸博覧会の会場までのアクセス
 - ア 瀬谷駅から会場までの新交通システムの整備について、国としても国際園芸博覧会開催までに間に合わないとの認識の有無
 - イ 駅から会場までのアクセスがシャトルバスになることの確認
 - ウ 新交通システムの整備が間に合わない中、計画案に記載されている来場者の交通分担率の変更の有無
 - エ 新交通システムの整備が間に合わない中で有料来場者数1,000万人を実現するため、法案第9条に基づき、監督上必要な命令等を国土交通省が早急に行う必要性
 - オ 会場建設費の国の負担分は公共交通機関の充実に充てることの有無
 - カ 会場近くの瀬谷駅、三ツ境駅及び南町田グランベリーパーク駅の博覧会開催中の利用見込数
- (4) 旧上瀬谷通信施設の跡地利用に関し①テーマパークを核とした複合集客施設、②新交通システム、③国際園芸博覧会が計画されたが、①、②が崩れる中で、国際園芸博覧会を開催することに対する大臣の所見
- (5) 国際園芸博覧会の運営費
 - ア 令和3年6月の閣議了解では運営費については助成しないとしている一方で、法案で運営費に補助できると規定する理由
 - イ 入場料収入で大部分が賄われる運営費が赤字になった場合の国が補填する可能性
 - ウ 運営費が赤字になった場合に補填する主体

金子俊平君（自民）

- (1) 国際園芸博覧会の国民における知名度及び我が国で開催する意義
- (2) 会場建設費の民間負担分の確保の見通し及び確保できなかった場合の対応方針並びに入場者数が目標に達せず運営費が赤字となった場合の対応方針
- (3) 国際園芸博覧会開催後の会場跡地の活用方法
- (4) 自家用車での来場者見込数及び確保する予定の駐車場の収容台数

- (5) 会場周辺の渋滞緩和策
- (6) 認知度を高めるため全国各地の花関係の施設等と連携する必要性

伊藤渉君（公明）

- (1) 観光産業の振興
 - ア 新型コロナウイルス感染症が落ち着きつつある現状における観光産業の支援策について観光庁の見解
 - イ 訪日外国人旅行者を2030年に6,000万人とする政府目標に対する現在の所見
 - ウ 運輸業が観光産業を支えていることを踏まえた当面の原油高対策等支援策及びこれからの観光振興施策に対する所見
- (2) 国際園芸博覧会におけるSDGsの目標達成に向けた具体的な取組及び検討の状況

山崎誠君（立民）

- (1) 国際園芸博覧会開催に向けて活動する神奈川県立瀬谷西高校の生徒の希望事項
 - ア 「豊かな自然と未来の街が融合する博覧会であってほしい。」といった上瀬谷で博覧会を開催する意義に関する大臣の所感
 - イ 「2030年のSDGs達成やその先の持続可能な社会実現のきっかけとしてほしい。」といった社会課題と博覧会開催による課題解決への貢献に関する大臣の所感
 - ウ 会場近くの海軍道路について「フラワーロードと改名し、来園者や地域の人に愛されるように整備してほしい。」といった平和の象徴として開催する意義に関する大臣の所見
- (2) 環境への投資でコロナ禍から復活を実現するグリーンリカバリーという観点からの国際園芸博覧会を開催することによる投資効果
- (3) グリーンインフラの実装に向けた予算措置を行う必要性
- (4) 2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）との連携等
 - ア 大阪・関西万博の計画時における国際園芸博覧会との連携の議論の有無
 - イ 連携により想定されるメリット及び具体的な連携プラン
 - ウ 国際園芸博覧会における国の体制を大阪・関西万博の体制に近づける必要性
 - エ 大阪・関西万博との連携について国による踏み込んだ対応を行うことに対する大臣の見解
- (5) 国際園芸博覧会における道路等交通インフラの整備
 - ア 国際園芸博覧会におけるインフラ整備計画を大阪・関西万博同様に国が作成する必要性
 - イ 遊歩道や自転車道を整備することに対する大臣の見解
- (6) 上瀬谷地区の生物多様性保全の観点等での価値を開発の際に守るための方策
- (7) 国際園芸博覧会跡地を活用して総合防災拠点を形成する計画の見通し
- (8) 自分たちの世代がつくる側に回る国際園芸博覧会にしてほしいという瀬谷西高校の生徒の要望を実現することに対する大臣の見解

浅川義治君（維新）

- (1) 令和9年に開催される国際園芸博覧会特別措置法案
 - ア 国際園芸博覧会の予定地には多くの小動物が生息しているが、開発を所管する大臣の職責と、小動物等の命の問題に対する大臣の認識
 - イ 農林水産省が国際園芸博覧会に対して担う役割及び法案を共管する理由
 - ウ 国際園芸博覧会における花卉の産業振興に繋がる取組

- エ 整備が検討されている新交通システムについて、第3セクターである株式会社横浜シーサイドラインが協力を断ったことを含むその検討経緯及び同社が協力を断った理由
 - オ 国際園芸博覧会開催後の跡地利用としてのテーマパーク構想
 - a 相模鉄道ホールディングスがテーマパーク構想の検討から撤退した理由
 - b 相模鉄道ホールディングスがテーマパーク構想の検討から撤退した後に引き継いでいる会社の有無
 - c テーマパーク又は集客施設の誘致状況及び誘致できるのであれば再度新交通システムの整備を事業者を検討してもらう必要性
 - カ バーチャルリアリティの世界だけで国際園芸博覧会を行うことに対する所見
 - キ 駅からのシャトルバスを運行することが難しい場合に空飛ぶ車の導入又はロープウェーの整備を検討する必要性
 - ク 国際園芸博覧会と大阪・関西万博との実務における関わりの内容
- (2) 未確認飛行物体
- ア 大臣が未確認飛行物体を目撃した経験の有無
 - イ 民間航空会社の関係者が未確認飛行物体を目撃し、当該会社を目撃を報告した場合に不当な扱いを受けないための環境整備を行う必要性

古川元久君（国民）

- (1) 横浜市において整備が検討されている新交通システム
 - ア 新交通システムの具体的なイメージ及び横浜シーサイドラインの延長が計画されていなければ新たな路線を整備することの確認
 - イ 国際園芸博覧会までに整備が間に合わないことを踏まえた計画続行の見通し
- (2) 国際園芸博覧会後の跡地利用計画であるテーマパークの具体的な内容の決定及び開業時期の見通し
- (3) 国際園芸博覧会の会場内に國酒をPRする場所を設けることについての所見

高橋千鶴子君（共産）

- (1) 国際園芸博覧会の会場となる旧上瀬谷通信施設における土壌汚染問題
 - ア 令和3年10月に防衛省が公表した土壌調査結果の概要と調査結果を踏まえた対処方法
 - イ 横浜市が令和5年に開催地内外で実施予定の試験植栽に対して汚染土壌が与える影響及び国が汚染土壌を撤去すべきとの考えに対する所見
 - ウ 防衛省が民有地の土壌汚染箇所を公表していないことに伴い試験植栽も含めた植栽場所において土壌汚染の影響がある懸念
 - エ 汚染土壌対策に関する大臣の見解
 - オ 土壌汚染対策法に基づき横浜市の指示により土壌汚染問題に対処する方針の妥当性
- (2) ICT活用等を含め1,500万人としている国際園芸博覧会参加者数を見直す必要性

福島伸亨君（有志）

- (1) 寄附金付郵便葉書等の発行の特例について前例踏襲は止めて国際園芸博覧会では行わないことに対する総務省の見解
- (2) クラウドファンディング等時代にあった方法で寄附を集めることに対する大臣の見解
- (3) 国際園芸博覧会の認知度を上げる必要性並びに国際園芸博覧会を行った場合の国の変化及び花卉産

業における変化を示す目標を設定する必要性

たがや亮君（れ新）

- (1) 横浜市が策定した租税公課が抜けている資金計画の修正を国土交通省が求めた上で国際園芸博覧会の収支全体を厳しくチェックすべきとの考えに対する見解
- (2) 国際園芸博覧会を開催する敷地において特定有害物質が検出されたことを踏まえ国が責任を持って環境アセスメントにのっとして対策を横浜市と連携して行うべきとの考えに対する大臣の見解